

大学院の授業における改善の試み

社会科教育講座・鴛原 進

1. はじめに

大学院教育学研究科教科教育専攻社会科教育専修における社会科教育特論Ⅱ演習（前学期）と社会科教育特論Ⅱ（後学期）を一連のものと位置付け実施した。今年度の大学院1回生対象開講科目のうち，教員配置の問題から，上記2科目4単位の取得は修了要件となっている。

2科目とも，履修登録者は5人，授業評価アンケート（自由記述）回答者は5人，単位認定者は5人であった。

社会科教育特論Ⅱ演習と社会科教育特論Ⅱの目的は，次のようである。

社会科教育特論Ⅱ演習（前学期）の目的：社会科教育実践上の諸決定の根拠となる授業理論の考察を通して，社会科学習論研究方法の習得を図る。「優れた授業」の分析と説明の演習を行う。

社会科教育特論Ⅱ（後学期）の目的：諸国の社会科教育を素材にして社会科教育の理論的・実践的課題を考察するとともに，社会科教育研究に必要な基礎理論や授業理論の考察，近年の社会科教育研究について理解する。

両科目の目的を達成するため，社会科教育，特に公民教育に関する入門的なテキストである，社会認識教育学会編『改訂新版 公民科教育』学術図書出版，2000年，を分担して報告し，院生同士，あるいは教員を交えて議論する形式をとった。

昨年度は，教員による社会科教育の基礎概念の説明に終始したという反省が残っている。今年度は，それを履修者に調べるヒントとして与えた上で，学生に報告してもらおう。そして，各人が基礎概念を踏まえた討議を進めることを心がけた。

2. 院生の授業評価

履修者の授業評価アンケート（自由記述）には，次の内容が寄せられた。

気になったことは，授業の中で院生それぞれがもっと意欲をもって取り組んでいたとはいえない場面が時々あったことである。発表者の準備が甘かった場合，鴛原先生の質問に即座に答えられないこともあり，周りの院生も事前に詳しく下調べをせずに授業に臨んでいる様子が見られた。社会科教育に最低限必要な基礎理論や授業理論については，ある程度知識をもって発表者は準備すべきであった。

よかったことは，前期にフィリピンの教育制度や中国の教育制度について分かりやすく整理された発表内容を聞くことができ，理解を深めることができた。

改善点としては，鴛原先生がおっしゃられていたように，発表準備で「深く調べたけれども，どうしてもここが分からないので，参考となる書籍を教えてください」といったような質問が出せるように，疑問点は，院生側で普段からお互い話し合い，高め合うことが必要である。

（以上院生A）

社会科教育特論Ⅱ演習・社会科教育特論Ⅱのテキストとして使用した社会認識教育学会編『改訂新版 公民科教育』には，公民科教育の歴史や内容構成がまとめられており，流して読むとなんとなく理解できたように感じる事ができた。しかし，講義前や講義中に内容を詳しく見ていくと疑問に感じる点が浮かび上がってきた。さらに，鴛原先生には自分たちの気がつかなかった問題点を指摘していただいた。それらの点

について議論することで、社会科教育についてテキストの内容よりもかなり広く深く学習することができた。これまでは、指導要領等はそういうものであると軽く受け入れるのみであったが、この講義を受けることによって、内容にどのような背景やどのような意図があるのかということについて深く考えることができるようになった。

(以上院生B)

この一年間で、社会科教育特論Ⅱ演習と社会科教育特論Ⅱを勉強しました。

前学期は、日本、中国とフィリピンの学校教育の体制などの区別が一番印象深かったです。これらを通じて、日本の教育制度、体制と発展の流れなどがわかりました。

後学期は、主に《公民科教育》を勉強しました。『改訂新版 公民科教育』の本を通じて、先生は、特に社会科・公民科の各科目を詳しく紹介してくれました。その上、教師にとって、公民科がいかに重要なものかを知ることができました。

先生の授業方式は、特別だと思います。先生はよく“なぜ？”といます。時々、先生の質問に答えられませんでした。先生からの数回の詰問があるうちに、そのわからないことを重視するようになりました。重視するので、よく考え、そして、調べます。ですから、良く覚えます。

(以上院生C)

社会科教育特論Ⅱ演習・社会科教育特論Ⅱを受講して、社会科という教科について、大まかではあると思いますが、理解することができたと思います。社会科の教員を目指す身として、講義内容も充実したものだったと思います。今回学んだことを、採用試験、修士論文などに活かせると思います。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

(以上院生D)

私は今回この授業を受講して感じたことは、調べることは難しい、ということだ。今までの授業とは違い、もともとなる知識を探して、さらに深いところまで探求していった。

もともとなる知識が欠けているのは、大学時代の不勉強のせいであるが、今回の授業で少しはまともになったのではないかと、思っている。

なかなか難しい授業であった。

(以上院生E)

3. おわりに

大学院生にほめられたり、感謝されたりしたことを、担当教員として、非常に恥ずかしく思う。研究し格闘する学問分野や事物は異なっても、学問に対する真摯な姿を大学院生に見せることができなかつた自分を本当に情けなく思う。これは、担当者自身に自分の研究に対する真摯さがなくなり、非常に傲慢になっていたからである。これらの授業評価アンケート(自由記述)が証拠である。深く反省し、謙虚に勉強していきたい。

大学学部・大学院の授業改革の必要性が叫ばれて久しい。が、授業改革を意識するあまり、もっと大切なものを忘れていた。情けない限りである。